

「インテーク面接」

インテーク面接は受理面接とも言われ、クライアントを引き受けカウンセリングを始めることができるかどうかを検討するための面接である。幅広い知識によつて的を射た聴取を行うと同時に、共感的な関わりをすることといった技術が求められる。「カウンセリングはインテークに始まりインテークに終わる」とも言えるほど、インテークで得られた情報（※1）には価値がある。今回は、質の高いインテーク面接を行うための14項目と見立てに役立つ精神疾患に関する表を記載した。とはいえ、インテーク聴取項目およびその目的について、網羅されているとは言い難く、各自、各項目を自分なりに増やしていくことが望まれる。

（※1 得られた情報とは、「得られなかった（語られなかった）ことさえ一つの情報」という意味である。）

CRCM臨床心理講座

第1回 序盤

心構え

- A. 文脈として理解し客観的に記述する
- B. ト라우マに直面させず曖昧さを排除する
- C. 半構造化面接～診断的理解と共感的理解～



共感的理解を優先し、診断的理解は放棄してもよい。その場でのクライアントの利益を守ること。ただし、診断的理解を放棄した場合、インターカーは、そのリスクを自覚し、自分の能力の限界を認め、初回面接担当者に謝罪し、未聴取の部分を必ず申し送る。

1. 導入

- (1)挨拶 ①自己紹介 ②日常会話 ③第一印象操作
- (2)気配り ①来所を労う ②道中の心情を汲む ③話すことの不安

導入部分では、クライアント側から自分がどのように見えるか、また、どのようにクライアントに見せたいかを意識して初対面を迎える。いきなり、前傾姿勢で熱心に聴こうとせず、クライアントの話が核心に触れるまでは、“ただ座っている”という状態が望ましい。極力、身振り手振りを避けることを意識しておく。

2. 観察

- (1)年齢 ①関与しながらの観察 ②平均値との比較 ③不在情報の発見
- (2)性別 ①相応か ②幼いか ③大人びているか ④老けているか
- (3)体型 ①男らしさ ②女らしさ
- (4)服装 ①痩身 ②中肉中背 ③肥満
- (5)表情 ①社会性 ②主義・主張 ③嗜好
- (6)態度 ①視線 ②笑い
- (7)仕草 ①落ち着き ②不信感 ③威圧感 ④依存的
- (8)口調 ①心境 ②象徴
- (9) ①言葉の速さ・量 ②自罰・他罰

事前情報との印象的なズレを捉えておく。表情が明るくても、その仮面の下には実際に来所するに至るほどの理由が隠されている。一方、泣きだしてしまいそうな場合には、インタークではカウンセリングの方針を立てるために、広く浅く聞かざるを得ないことを伝え、了解してもらい、泣き崩れずに我慢することの大変さを汲み、話せるように励ます。また、観察し臨床像を明らかにすることの目的は、防衛的な態度やその程度を見定めるといったことを優先としたい。顎が上がる、胸をそらす、腕を汲む、足を汲む、眉間にしわを寄せる、手足の先が落ち着かない、多弁、質問口調、嘲笑などが複数見られる場合、カウンセリングをこき下ろしに来ている可能性を考慮し、対立しないように気をつける。

